ごみかんメンバーの ごみよもやま話

本領発揮してきました！

佐渡ヶ島・へっついの家でごみ分別指導

ごみ・環境ビジョン21 運営委員　井上真紀子

あれ？ この分別はおかしくない？

前号のごみっとで佐渡ヶ島のへっついの家のことを記事にしました。放射能被爆の不安を抱えた家族が保養に訪れるへっついの家は、主催者の関久雄さんと大勢のボランティアによって運営されています。

この夏のお盆の時期に、ごみかんの江川さんがへっついの家にボランティアに行くというので、私もくっついて行くことにしました。私は５日間の滞在で、仕事は主に朝昼晩のごはん作りです。とはいえ、料理が得意かといえばまったくそんなことはなく、本当に役に立っているのかなぁ、と毎日不安だったのですが、へっつい家の生活にだいぶ慣れてきた後半、起死回生のチャンスがやってきたのです！

それは、江川さんと４日目の朝ごはんの後片付けをしていた時のこと。納豆の容器を洗ってごみ箱に捨てようとして、思わず江川さんに言いました。「ね、ここの家のごみの分別ってちょっとおかしくない？」。江川さんも「そうだよね。袋とかトレイとかのプラ容器も可燃ごみに入れちゃってるからごみ量が増えてる。土間にごみが入った有料の不燃袋がいっぱいあるのもおかしいね。不燃ごみなんてふつうはたいして出ないよね」と。

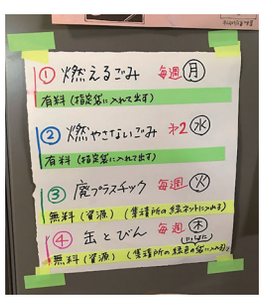
生ごみは畑の一角にあるコンポストに入れているのだけど、台所のごみ入れには紙もビニール袋もトレイも、みんな一緒くたにつっこまれている。それに、いっぱい出るペットボトルを何故か有料の不燃ごみ袋に入れて出していることが発覚！ これは絶対に変だ。

ほら、こんなに可燃ごみが減った♬

へっついの家にはいろいろな人が入れ替わり立ち代わりやってきて台所仕事やごみ捨てをするし、特にごみ問題に関心がある人が来るわけではないので、こうなってしまうのも仕方がありません。

探しても自治体のごみカレンダーや分別表も置いてないみたい。それならと、スマホで佐渡市のホームページでごみの情報を探す。こういうのは得意(笑)。なんだなんだ、佐渡市はちゃんと容器包装プラは分別して、資源として無料で回収しているじゃないですか。

さっそくダンボール箱を使って容器包装プラ用のごみ入れを作る。容器包装プラとはどういうものかわからない人がいるかもしれないので、絵を描いてわかりやすくして貼ってみた。ごみカレンダーも作りました。



江川さんは、土間に積んであった不燃ごみの袋を全部開けて、ペットボトルなどを救出！ 調べてみたら、有料の不燃袋に入れていたペットボトル、空き缶、空き瓶は、地区ごとに決まった曜日に、集積所に備え付けてある緑の袋に入れることになっていました。

次の日、江川さんが地区の集会所に、曜日に関係なくごみを置ける場所があるのを確認してきてくれました(写真)。都心と違って、収集所がけっこう遠いので、こういう場所は必須ですよね。

「見て！こんなに可燃ごみが減った」「たまってるペットボトルや不燃ごみはちゃんと分別したから、収集日を待たずに明日、クリーンセンターに持ち込もうか？」本領が発揮できて、やけにイキイキとする私たち。自分たちでも「私たち、佐渡まで来て何やってるんだろね」とおかしくなりました。

この後も正しく分別できているか、来年も目を光らせに行かないといけないかな？